2011年　春の沢集中

春木川・大滝沢

平成23年6月4～5日

L釣、河崎、熊崎、釼持（記録）

前夜は23時に新松田駅でピックアップしてもらい、前泊予定の道の駅とみざわへ向かう。しかし行ってみると、現地はトラックの行き交う音が響き、眠るのにあまりよい環境ではなかったため、近くの静かそうなところでひっそりと仮眠する。

６／４　七面山の羽衣登山口には８時前に着いた。七面山は日蓮宗の信仰登山が盛んで、稜線上には宿泊可能なお寺もあるようだ。登山口は白装束をまとった信徒が大勢、入山準備をしていて駐車場はほぼ満車。かろうじて空いていた路肩に車を停める。

準備をして歩き始める。さっきの修験者たちが登りながら唱えているお経が聞こえてくる。日本人には信仰心が乏しいと言われているが、そんなこともないなと思う。じきに荷揚用のリフトの前を通過し、大春木沢出合で沢靴に履き替える。しばらくは広い河原。二人組の釣師に会った。この先も魚の姿は見つからなかったが、各所にトラロープ、赤テープや釣り糸があり、釣師も入渓するようだ。

大滝のだいぶ手前、左岸に赤テープがぶら下がっている。高巻きルートだが、せっかくなので大滝を見物に行く。ものすごいしぶきを立てて落ちている。これは圧巻。滝の前には「南無妙法蓮華経」と彫られた石碑もあった。

写真に収めてから、さっきの高巻きに入る。踏み跡はとてもしっかりしているが、初日はいつも調子が良くなく、早くもぜいぜい言いながら登る。ゆっくりなので足元がよく見える。ヒルがいっぱいうにょうにょしている。身延にはヒルがいる、との事前情報により、ボロいストッキングを２枚履きしてきたが、安心はできない。上から落ちてくるとも聞いたことがある。しばらく登ったあとは、踏み跡はトラバースになる。トラロープがしっかりつけられているので一応掴みながら水平移動。途中、沢床に下りられそうなところがあり、古いトラロープが垂れている。「このまま巻きがだいぶ進んでしまうのでは」と釣さんが言った。ここから懸垂で降りるのか、と思ったらトラロープを掴んで釣さんが下り始めた。が、数m下りたあたりで、なんとトラロープがぶちっと切れてしまい、そのまま落ちてしまった。沢床まで20mくらいはあったように見えたが幸い、怪我もなかったようだ。結局残りの３人はそのまま巻き道を行き、ザレた斜面から無事に沢床に戻る。靴にはヒルがいっぱいついていて、その後も高巻きの度にヒルを剥がす。

大滝のあとは、2～3mの小滝が続き、簡単に登れるものが多いので楽しい遡行が続く。10m滝は右岸に巻き道がついており、例によってトラロープで沢に戻る。

それにしてもみんなの足が速い。ついて行くだけで精いっぱいで、下りたところで休憩するが、またしても靴についたヒルが寄ってくる。落ち着いて座る気分になれず、イマイチ、沢を楽しめない。ヒルさえいなければいい沢なんだけど。

7m滝は河崎さんがノーザイルでするする

と登り、補助ロープでビレイしてもらう。ちょっと難しいけど、何とか越える。このあたりからヒルは見かけなくなった。

難所がその先のCS5m。水流右の岩と岩の間を登るが、スタンスが右側しかない。ネット上の記録では、ジャンプしてカムをセットし、シュリンゲを垂らしてアブミにして登るようだ。熊崎さんが格闘しているが、カムが決まらない。一方、河崎さんが左の壁をフリーっぽく登ったが、ビレイ用のハーケンが打てないとのことで、水流右を登ることになった。先に二人の登り方を観察し、私がラスト。左はホールド、スタンスともなし。少し上がれば左のガバを取れるが、手が届かない。手は水流の中なのでどんどんかじかんでいく。釣さんが垂らしてくれたシュリンゲを掴み、休憩しながらやっとのことでよじ登る。待たせてすみません。

【CS5mの左壁。ﾊｰｹﾝが打てなかったそう】

次のCS10m滝は全く登れない。右のルンゼから高巻くが、これがとても悪い。足元がガラガラ崩れやすくて、とても疲れた。ルンゼから笹薮に入り、懸垂で沢床へ降りる。

【CS10m】

最後の10m滝は河崎さんがリードに挑んだが、支点が１本しか取れずに下りてきた。小さいカムがあれば行けたとのこと。右から巻き、沢に戻ると二俣。ここまで思いのほか時間がかかってしまい、時間も時間なのでここでビバークすることになった。当初の計画では稜線まで上がる予定だったが、ツェルトを張り、気持ちを切り替えて早速薪を集める。鋸を持っていなかったが、手頃な倒木がいっぱいあった。ちょうど無線交信の時間だったが、うまく電波を拾えなかった。釣さんのビビンバ丼で明日に備える。

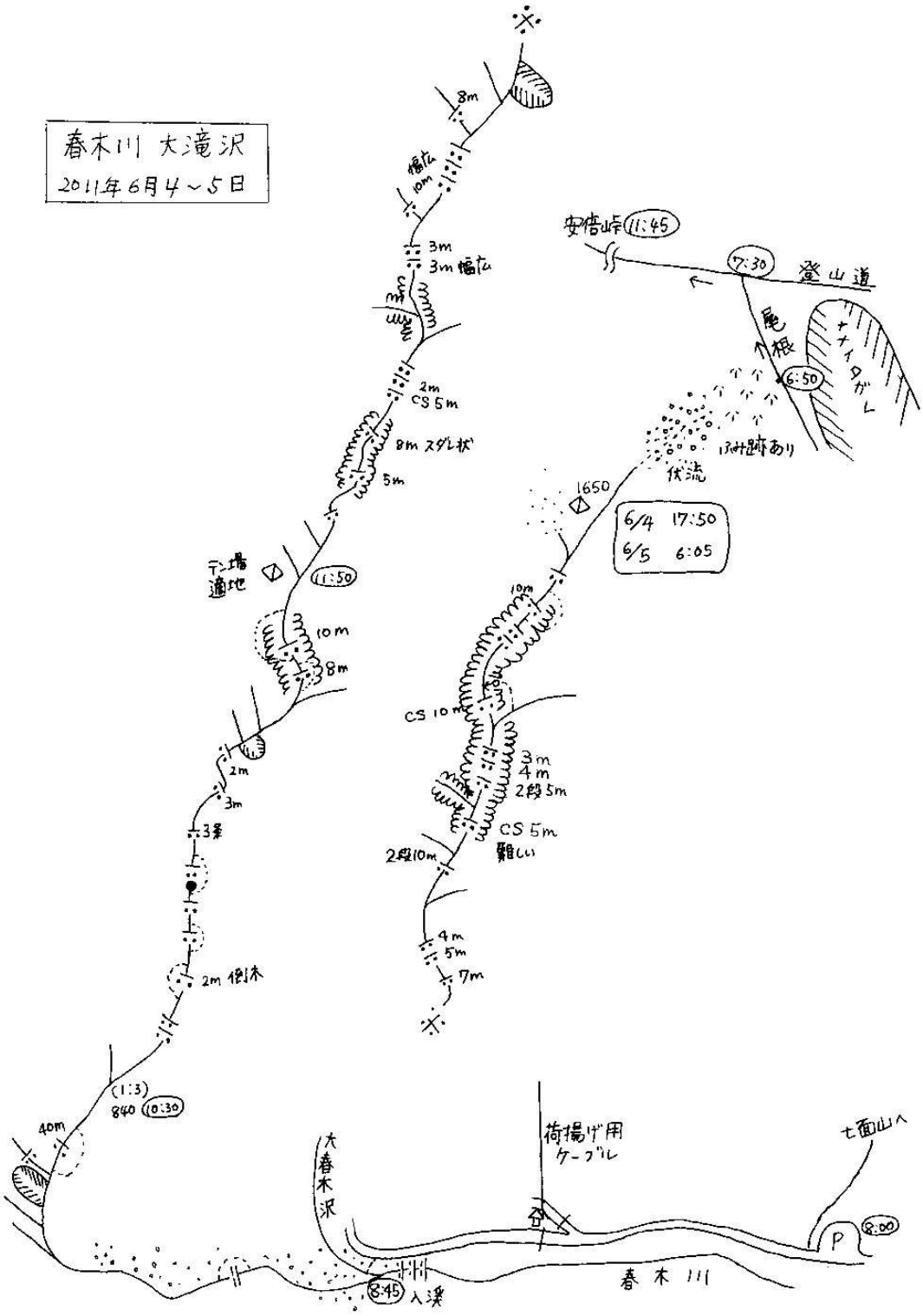
６／５　”明日は頑張って集中だな～”と思いつめていたのか、ほんとに集中する夢を見て、4 時半起床。今日は稜線歩きを経て 11 時に安倍峠集中なので、予定より長丁場だ。6 時に出発。源頭の雰囲気だが、倒木はそれほどなく、荒れた雰囲気ではない。が、前日の疲れが残り、あまり調子が上がらない。沢のすぐ隣に踏み跡を見つけ、迷わず踏み跡をたどる。すぐに伏流となるので、手前で水を汲んでおく。ここからつめとなるが、ザレた伏流から数m離れた林の中には踏み跡が続いている。仕事道だろうか、おかげで大変助かった。踏み跡で高度を稼いだあとはザレ場に戻り、膝下くらいの笹の中を登って尾根に出た。皆からちょっと遅れて、テン場から 1 時間くらいで到着。ここで沢装備を解き、運動靴に履き替える。尾根の反対側は大崩壊したナナイタガレ。すごい景観だ。沢一本隣なだけなのに、こうも違うものだろうか。

相変わらず続く踏み跡を南寄りに歩き、登山道へ出た。ここからはひたすら南の安倍峠を目指す。コースタイムで 4 時間強か。11 時には厳しいが、急ぎ足で向かわねばならない。

小走りで行くものの、登り坂であっという間に河崎さん・熊崎さんに離される。途中、定時交信も行いながら、安倍峠手前の駐車場には 11 時 40 分頃に着いた。足にでっかいマメができていた。息を整えていると、三井さんと斎藤さんが迎えに来てくれ、12 時前に無事集中できた。疲れた体で 4 時間以上の急ぎ足はだいぶ辛かったが、これも「集中」だから為せることかもしれない。山行中は皆を待たせてばかりだった。ありがとうございました。

6/4　8：45　入渓
　　17：50　1650m 地点
6/5　6：05　1650m 地点
　　7：30　登山道

【ナナイタガレ】


春木川 大滝沢
2011年6月4～5日
8m
幅広 10m
3m
3m 幅広
2m
CS 5m
8m スダレ状
5m
テン場適地
11:50
10m
8m
2m
3m
3段
2m 倒木
(1:3)
840
10:30
40m
安倍峠 11:45
7:30
登山道
亀根
6:50
ナイタガレ
ふみ跡あり
伏流
1650
6/4 17:50
6/5 6:05
10m
CS 10m
3m
4m
2段 5m
CS 5m
難しい
2段 10m
4m
5m
7m
大春木沢
荷揚げ用ケーブル
七面山へ
P
8:00
8:45
入渓
春木川